

多様性を認める

坂井市立丸岡中学校 三年 大木陽莉

私の学校は先日、外国の方と交流する国際交流を行いました。私はこの授業をする前、不安でいっぱいでした。なぜなら、私たちと外国の方は、言語も違えば、文化や宗教も違うからです。しかし、私のこの考えは違うことを国際交流で気づかされました。

英語の授業で、外国の方とゲームをし、交流を深めました。折り紙や習字、ババ抜きなどのゲームをし、日本の文化について知ってもらいました。私の班は、ババ抜きについて説明しました。もちろん、英語で説明するのでは伝わらなかったらどうしようと不安になっていました。しかし、その不安は一気になりました。初めに、

「Do you know old iddy ?」

あなたは、ババ抜きを知っていますか、と英語で聞きました。私は、

「No, I don't.」

と答えるだろうと思いました。しかし、外国の方は、

「Yes, I do. I like it.」

知っています。私はババ抜きが好きです、と答えました。私は、その返答にとっても驚きました。ババ抜きは、日本でしかないゲームだと思っていましたからです。ゲームをしているととても盛り上がり、すぐに終わりの時間がきてしまいました。最後に彼らが、

「ありがとうございます。」

と言いました。この言葉は毎日のように聞いているのに、私の心に何か刺さったような気がしました。その後、給食の時間がきました。給食も外国の方と一緒に食べ、たくさん話しました。外国の方とは、文化が違うと思っ
ていたけれど、私たちと同じ給食を箸を使って食べていて、同じ文化のところもあるなど実感しました。給食の時間だけでは、話す時間が足りず、昼休みの時間も外国の方と話しました。言語が違い、伝わりにくくても、一生懸命伝えようと、ジェスチャーや表情で伝えたり、タブレットにある翻訳機能を使ったりして、たくさん話しました。言語が異なっているとしても、自由に話ができ、楽しめることが分かりました。外国の方が帰ってしまうときは、とても悲しかったけれど、良い経験ができ、思い出ができました。

国際交流を通じて気づいたことは、異なる文化や価値観に触れることで、自分の視野が大きく広がることです。

この経験を通じて、多くのことを学びました。

一つ目は、文化の違いがどれほど豊かで多様であるかということ です。食文化・言語・習慣・そして考え方の違いは、私にとって刺激的でした。例えば、日本では一般的にあまり表情を大きく変えないことが多いですが、他の国の人々は、自分の感情を素直に表現することが多いと感じました。この違いは、話しているときに分かりやすいという影響を与えました。

二つ目は、国際交流を通じて、人々の共通点を見つけることができたことです。価値観や目標、夢を持つことは、どの文化においても共通しているということに気づきました。私は、言語や文化が異なっても、自由や平等、協力を求める気持ちは同じだということを実感しました。これによって、国を超えた絆が生まれるのだと感じました。

三つ目は、自分自身を見つめ直す良い機会となったことです。異なる意見をもつ人々と接することで、自分の考え方や価値観について新たな視点を得ることができました。例えば、自分があたり前だと思っていたことが、実は他の人にとっては異なる意味をもつことがあるということに気付かされました。異なる意見をもつ人々と接することで、共感や理解を深めることができ、人権を尊

重する意識も高まります。私たちは、違いを理解し、受け入れることで、よりよい社会を作ることができます。

このような経験を通して、国際交流の大切さを強く感じました。異なる文化を理解し、尊重し合うことは、今のグローバル社会において、ますます重要になっています。私たち一人一人が多様性を認め、他者の権利を守るために行動することが、国際社会の中での共生につながると思います。国際交流を通じて得た経験を活かし、よりよい社会を築いていきたいです。